

年間第 28 主日の説教

金 大烈 神父 2009 年 10 月 11 日 (日)

《あなたに欠けている物が一つある》

おはようございます。

すっかり秋に入った様子ですね。信仰者である私達にとって秋は祈り・黙想の季節です。わざわざ一人だけの時間を持って、孤独を感じたら神様との対話出来る良い季節だと思います。

今日の福音(マルコ 10・17-30)に入ります。ある青年がイエス様に近づき「善い先生、永遠の命を受け継ぐには何をすればよいでしょうか。」と聞きます。それに対してイエス様は「掟があり、その掟を守れたら永遠の命を得られる。」とおっしゃいます。そして掟についていくつか例えを挙げます。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え。」と。その話を聞いた途端に待っていたように青年は、「それは子供の時から守ってきました。」と答えます。イエス様はその彼の様子を微笑みながら「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、私に従いなさい。」とおっしゃいます。その言葉を聞いて、青年はどうしましたか？ 聖書では《気を落として》と表現されていますが、彼は自分が持っていた財産が多かったので《がっかり》してイエス様の所から離れます。

この話をもっと理解するために、この青年の心の中、いわゆる心理について図って見ましょうか。おそらくこの青年は子供のころから信仰的な環境の中で教育され、親から守らなくてはいけない事を教えられ、きちんと守りながら成長したでしょう。そして彼は親から貰った財産が多かったか、または物を儲けるタレントがあり、商売等が成功し、経済的にも豊かになったでしょう。しかし、この青年が分からなかったことがあります。人生って一つが得られたら、一つ失うのが大体の自然の法則です。しかし彼は全部握ろうとしました。世の物も天国の物も。即ち、世の欲望と神様の掟と共に出来ると思った訳です。彼は先祖から伝えられている全ての掟を守りながら自分は正しい者と思い、祈りも一生懸命してきたのでしょ。しかしその心の中に一つ欠けていた物があるとイエス様はおっしゃいました。イエス様が青年の心を見通したのは全ての掟の精神である‘愛’の欠乏でした。青年は自分の為に祈り、自分の為に掟を守って、自分の為に富を積んだのです。しかしイエス様が彼に伝えたかった一番欠けている一つは、掟を守る深い意味をわかっていない事を指摘なさったのです。イエス様がいつも訴えている内容は「全てのあらゆる掟は愛の実践の為に作ったものである。」と言う事です。

私はいつだったか、福音の実践について二つ方法があると話しました。消極的な実践と積極的な実践です。消極的な実践とはなんですか？ “するな”と言われている事をしない事です。守らなくてはならない事を守ればいいのです。そして積極的な実践はなんですか？ 掟の下に敷かれている精神を生かして自分の生活の中で実践する事です。‘悪いことをしない事’と‘善い事をする事’は全然違います。ほとんどの方は悪い事はしませんね、それは教会の教えを守っているからでしょう。逆に自ら積極的に良いことしようと頑張ってきたでしょか？ 他人の為に何かを捧げなくてはならないという気持ちで暮らしているでしょか？ イエス様がおっしゃっています。掟というものは私達が罪を犯すことを防ぐ為の最小限度の必要な法律です。イエス様が今日の福音を通して訴えられているのは、私達が自ら動いて必要な人に手を伸ばす、振る舞いを見せる積極的な愛の実践だと思います。今日の福音では青年を躓かせたのは彼が持っていた沢山の財産だったのですが、もし、今イエス様が私達各自に、「あなたに欠けている物が一つある。」とおっしゃったら、それは何でしょか？ 一人ひとりによって違うと思います。個人的に自分の過去を振り返って見ても、いつも捨てなくてはいけない

物が必ずありました。自分では全部捨てたと思っていた。「あなたは、まだ捨てなくてはいけない物がある。」と悟らされました。そして考えてみますと、それは自分が一番手放したくないこと、持っていたい物、諦めたくないことでした。このようなサインはいつも神様から頂いていると思います。ただ問題は私達がこのサインに耳を傾けない、そして意識しないで過ぎて行ってしまう事です。実際に私たちは生まれてからいつもこのように神様に呼びかけられています。「捨てて欲しい、捨てなければあなたは永遠の命が得られない。」何回も何回も繰り返して神様はおっしゃっています。ただ私達はそれを聞きたくない閉ざされた心があるので、その御言葉に対して知らない内に鈍くなり聞いていても忘れてしまうのです。

もう一度イエス様から「あなたに欠けている物が一つある。」と聞かれたら、皆様はどのような答えを探すのでしょうか？ 今日の福音でおっしゃっている事は全ての考え方、振る舞いには《愛》がなければ何も役に立たないという話です。奉仕・施し・祈りをする事、そして典礼に与る事さえ、その中に《愛》がなければそれは無駄な事であることをイエス様はおっしゃっているのです。

最後に、使徒パウロがコリントの教会へ送った手紙の箇所で仕舞わせていただきます。

「そこで、私はあなた方に最高の道を教えます。例え、人々の異言、天使達の異言を語ろうとも、愛がなければ、私は、騒がしいドラ、やかましいシンバル。例え、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、例え山を動かすほどの完全な信仰をもっていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々の為に使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を引き渡そうとも、愛がなければ、私には何の益もない。」(コリントの信徒への手紙 13・1-3)

ありがとうございました。